

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第76号

2016年2月5日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2016 年度総会・全国研究大会概要

日時：2016年6月11日（土）・12日（日）

会場：和歌山大学（〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930）

※会場アクセス <https://www.wakayama-u.ac.jp/about/access.html>

担当：吉田道代（和歌山大学）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

□第1日目 6月11日（土）

10:00 理事会

13:30 開催セレモニー

14:00 特別講演（豪日交流基金助成）

講演：マリア・ニュージェント（東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）

15:00～17:30 豪日交流基金助成シンポジウム1：オーストラリアにおけるツーリズムの諸相
コーディネータ：吉田道代（和歌山大学）

報告者：加藤久美（和歌山大学）

フレヤ・ヒギンズ=ディスビオルス（南オーストラリア大学）

吉田道代（和歌山大学）

討論者：永井隼人（クィーンズランド大学）

18:00 懇親会

□第2日目 6月12日（日）

10:00 一般個別研究報告

12:00 理事会

13:00 総会

14:00～16:30 豪日交流基金助成シンポジウム2：「境界」を越える人びと：豪北部海域における人の移動
と境界管理

コーディネータ：鎌田真弓（名古屋商科大学）

報告者：永田由利子（クィーンズランド大学）

ナターシャ・ステイシー（チャールズ・ダーウィン大学）

飯笹佐代子（東北文化学園大学）

討論者：村上雄一（福島大学）、長津一史（東洋大学）

16:30 閉会挨拶

2. 一般個別研究発表者募集延長のお知らせ

オーストラリア学会 2016 年度総会・全国研究大会は、6月11日（土）・12日（日）の両日に、和歌山大学で開催される予定です。個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、3月15日（火）までに、学会事務局あてに書面またはメールでお申し込みください。その際、200字程度の要旨を添付してください。

3. 第9期第4回理事会報告

日時 2015年11月22日(日) 15:00-17:00

場所 慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟地下1階第1会議室

出席者 福嶋輝彦、花井清人、飯笹佐代子、石井由香、川口章、永野隆行、佐和田敬司、塩原良和、安田純子、吉田道代(以上、理事、ABC順)

白江英司、多田稔(以上監事)

委任状 5通

【報告】

1. 川口理事より、2015年6-11月の一般会務報告があった。
2. 永野理事より、2015年6-11月の活動報告があった。
3. 飯笹理事より、2015年6-11月の編集活動報告があった。
4. 塩原理事より、2015年6-11月の会計報告があった。
5. 石井理事より、英語ページ作成の進捗状況について報告があった。

【議題】

1. 永野理事より、2017年度全国大会開催校として成城大学(会場校担当:花井理事)が提案され、承認された。
2. 石井理事より、学会ホームページに研究大会プログラムのページを新設することが提案され、承認された。
3. 川口理事より、入会申し込みのフォーマットを変更し、オンライン申し込みとすることが提案され、承認された。
4. 川口理事より、国際文献社との契約更新について報告があり、「学会機関関連業務基本料」について国際文献社と交渉することが提案され、承認された。
5. 福嶋理事より、FASICなど海外のオーストラリア研究組織との交流を進めていくべきとの提案があった。海外の研究大会等への代表派遣依頼があった場合は、積極的に応じることが承認された。なお、派遣については2015年6月の理事会で承認された「オーストラリア学会代表者国際大会参加費用助成ガイドライン」に従う。
6. 塩原理事より、「オーストラリア学会代表者国際大会参加費用助成支出ルール」について提案があり、メール審議とすることが承認された。
7. 川口理事より、入会者・退会者一覧が提示され、承認された。

4. 第9期(2013年6月~2016年6月)役員一覧

[代表理事] 福嶋輝彦

[副代表理事(総務)] 川口章

[会計担当理事] 塩原良和

[広報・会報担当理事] 村上雄一

[副代表理事(企画)] 永野隆行

[全国研究大会担当理事] 村上雄一

[プロジェクト担当理事] 佐和田敬司、馬淵仁、三宅眞理

[関東例会担当理事] 花井清人、佐和田敬司

[関西例会担当理事] 栗山直子、吉田道代

[副代表理事(編集)] 飯笹佐代子

[学会誌担当理事] 安田純子、岡本哲明、青木麻衣子

[HP担当理事] 川口章、石井由香

[監事] 白江英司、多田稔

[本部事務局員関東部会担当] 山内由理子

[本部事務局員会報・全国研究大会担当] 濱野健

5. 国際大会参加報告

「第3回 Foundation for Australian Studies in China (FASIC) Conference に出席して」

原田容子

ガリボリ上陸から100年というオーストラリアにとって節目の年となった昨年、3回目となるFASICコンファレンスが上海で開催された。会場の華東師範大学には初代在中国オーストラリア大使 Stephen FitzGerald 氏を筆頭に、オーストラリア、中国からはもとより、諸外国から60名を超える研究者、ジャーナリスト、更に多数の地元の学生が集まった。その場に私は福嶋輝彦代表理事、鎌田真弓会員と共に参加する機会に恵まれた。

「Contested Histories & the Politics of Memory」をテーマに開催された同コンファレンスは、FASIC 初代チェアの David Walker 教授他による参加者歓迎スピーチの後、ABC ラジオの Richard Fidler 氏が司会を務めるセッション「Australian Studies in Asia」で開幕。中国、韓国、インドからの研究者に並んで福嶋代表理事が登壇した。オーストラリアのアジアにおける認知度や役割が論じられたが、オーストラリアはアジア諸国間の対話促進に貢献出来る立場にいるのではないかと福嶋代表理事は指摘した。

また、同日午後開催の「History Wars」のセッションには鎌田会員と福嶋代表理事両名が参加。鎌田会員は旧日本軍によるダーウィン爆撃について豪米が共有する記憶、今後日豪が共有し得る記憶について論じ、一方で、福嶋代表理事は戦後の経済関係正常化の過程における、日豪間での戦争の歴史克服の試みに焦点を当てた報告を行った。私も「Remembering World War One」セッションで、Anzac 100周年を記念する式典で、いかに日本ファクターが利用されたかという論文を発表した。

コンファレンスの関心は当然のことながらオーストラリア、そして豪中関係に集まりがちだったが、日本を含む他国からの視点も加わることで、より多面的な討論が可能となった。同時に ASAJ に持ち帰ることが出来る知見も多く、今後とも FASIC との連携を図ることが望まれる。

最後に、今回のコンファレンスでは中国の学生たちによるポスター発表及びコンテストが行われ、最終日には上位7名が壇上で英語でのプレゼンテーションを行った。いずれの学生の発表も質が高く堂々としており、中国におけるオーストラリアン・スタディーズの潜在能力の高さを感じさせられた。

6. 第22回地域研究会（関西例会）のお知らせ

***会員以外の方も参加できます。入場無料**

日時：2016年3月5日（土） 14:00-17:00

場所：追手門学院 大阪梅田サテライト（阪急ターミナルビル16階）

交通：阪急梅田駅直結。JR 大阪駅（徒歩約2分）、地下鉄御堂筋線梅田駅（徒歩約1分）、地下鉄谷町線東梅田駅（徒歩約5分）。

アクセス・マップ <http://www.otemon.ac.jp/umeda/access/index.html>

連絡・申込み先：和歌山大学観光学部 吉田道代（オーストラリア学会関西例会担当理事）

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930

Email: gemy@center.wakayama-u.ac.jp

（メールのタイトルに「関西例会申し込み」と明記してください。）

発表1 14:00-15:20（発表50分、質疑30分）

「オーストラリアの捕鯨の歴史」

加藤久美（和歌山大学教授）

<要旨>オーストラリアは、1979年に捕鯨産業が幕を閉じて以降、捕鯨国から反捕鯨国へと変容していった。今日、その発言は世界的な主流である反捕鯨の立場を代表しており、クジラは環境保全意識とその支持者のアイデンティティを象徴するものとなっている。西洋的とされるこの考えは、日本の「反・反捕鯨」といった捕鯨支持の立場を構築してきたとも言える。本発表では、クジラ（あるいは捕鯨）が、オーストラリアの国際関係の構築および環境保全意識の発展とどのように関連するかを、1900年代初期から2009年までの約100年間に制作されたメディア資料を基に分析する。また、オーストラリアのナショナル・アイデンティティにおける国土と海とのつながりの構築に、クジラ（あるいは捕鯨）が関係していることも明らかにする。

発表2 15:40-17:00 (発表 50 分、質疑 30 分)

「太地町の伝統文化」(英語:日本語資料付)

サイモン・ワーン (和歌山大学特任助教)

＜要旨＞日本では、オーストラリアは一致して反捕鯨の立場をとっていると思なされがちだが、オーストラリア人である発表者の立場は、文化的視点から捕鯨を理解する必要性をオーストラリアに対して主張するものである。西欧諸国による反捕鯨の議論が活発になったのは、この 20 年ほどである。しかし、反捕鯨の西洋的態度はそれ以前から存在しており、江戸末期 (1820 年頃) から) に日本に來訪したオーストラリア人を含む西洋人の事例にも確認できる。本発表では、こうした反捕鯨の西洋的態度と捕鯨をめぐる論争の歴史をたどることで、日豪間の進展のない摩擦の状況を打開する手がかりを提示したい。オーストラリアもかつては捕鯨国であり、植民地時代に捕鯨から大きな恩恵を受けたが、現在の捕鯨をめぐる議論において、この点は語られない。また、オーストラリアが批判の対象とする和歌山県太地町の捕鯨について、忘れ去られたこの産業遺産が唯一の持続可能な捕鯨産業の例であり、将来大きなツーリズム産業への可能性も秘めていることにも言及する。

7. 第 21 回地域研究会 (関西例会) 報告

2015 年 11 月 7 日 (土) 14:00-17:00 まで追手門学院大学において、①「オーストラリアの TANKA について」田中教子 (近畿大学非常勤講師)、②「トレス海峡諸島人によるジュゴン鯨の窮状—サイエンティストと島人の〈海〉への関わり方の差異に関連して—」松本博之 (奈良女子大学名誉教授)、それぞれ 80 分の発表 (発表 50 分、質疑応答 30 分) がなされた。田中氏の発表では、2005 年頃から TANKA と呼ばれる 5 行詩がオーストラリアで盛んになった経緯と今後の英詩の展開についての報告がなされた。引き続き、松本氏による発表ではジュゴン狩猟をめぐる先住民とサイエンティストたちの〈海〉をめぐる自然観の違いについて、またジュゴン鯨で生活を営む先住の人々にとっての経済的・社会的・文化的な意味づけについて映像資料を交えて報告がなされた。報告の後には活発な質疑応答がなされた。参加者は 13 名 (文責: 栗山直子)。

8. 第 10 回地域研究会 (関東例会) 報告

2015 年 11 月 21 日 (土)、早稲田大学でラウンドテーブル「オーストラリア演劇と戦争の記憶—The One Day of the Year の描く ANZAC 神話」を開催しました (出席者約 50 名)。まず Alan Seymour (1927 - 2015) の戯曲『年に一度のあの日: The One Day of the Year』(1960 年初演) を、佐和田敬司訳、平戸麻衣演出で上演しました。この作品はある平凡な家庭で ANZAC 神話について激論が交わされる、オーストラリア演劇の原点となる名作で、今回が日本語初上演でした。発表は、①渡辺幸倫 (相模女子大学) が、ANZAC 神話の始まりから現在、とくに現代のトルコの視点などに着目し論じました。②佐和田敬司 (早稲田大学) の「初演から 55 年: よみがえる『年に一度のあの日』」は、半世紀の間に変容した ANZAC 神話の意味が、作品の上演と評価に与えた影響について論じ、また ANZAC を扱った現代の先住民演劇 Black Diggers と比較を行いました。その後、発表者、演出者、出演者、観客が、活発な意見を交わしました。本会は、ガリボリ 100 周年という記念すべき年に、オーストラリアの学校教育でも長く学ばれてきた演劇史・文学史上の代表的古典を、日本に紹介する絶好の機会となりました (文責: 佐和田敬司)。

9. 慶應義塾大学法学部 関根政美先生最終講義のご案内

オーストラリア学会の発展に創設当時からご尽力され、代表理事も務められた関根政美先生が、慶應義塾大学法学部を本年度限りで定年退職されます。下記の要領で最終講義が開催されますので、学外の方もぜひお越しください (入場無料・事前予約不要)。

日時: 2016 年 3 月 12 日 (土) 13:00~14:30

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 西校舎 1 階 517 番教室

<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

講義題目: 「オーストラリア研究と 35 年」

お問い合わせ: 塩原良和 (shiohara@law.keio.ac.jp)

10. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4 月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2015 年 5 月に年会費を納入しても、2014 年度未払いの場合、それは 2014 年度の会費となります。すなわち、2015 年度は未納ということになります。また 2013、2014 年度未払いの場合、2013 年度分の会費納入になります。

<2015 年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2015 年度を含め最多 3 か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在 2015 年 3 月発行、第 28 号）までをお送りしております。事務局では 3 か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

11. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次の 30 号の締め切りは 2016 年 8 月 31 日です。29 号・30 号に掲載された論文は「第 2 回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、奮って投稿してください。投稿要領については、学会ウェブサイト、もしくは 29 号（2016 年 3 月刊行予定）掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは 2016 年 10 月 30 日です。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだ CD もしくは USB）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当
TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

12. 新刊書のご案内

伊井義人編著 『多様性を活かす教育を考える七つのヒント——オーストラリア・カナダ・イギリス・シンガポールの教育事例から』 共同文化社（四六判、160 頁、定価 1,800 円＋税、ISBN: 4-87739-276-5）

* 学校教育における多様性の活用とは？

出版社ウェブサイト: <http://kyodo-bunkasha.net/>

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL: 03-5937-0249 FAX: 03-3368-2822 Email: asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付
TEL: 075-251-3469 E-mail: akawaguc@mail.doshisha.ac.jp
会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

【編集担当: 村上雄一（福島大学）／編集協力: 濱野健（北九州市立大学）・藤岡伸明（法政大学）】